

## 🎁 まちの声&プレゼント

本紙への感想、身の回りであった出来事や日常生活で感じたことなどをお寄せください。お便りをくれた人の中から、ふくろう陶房よりフクロウの置物1つを5人にプレゼントします。

■応募締め切り 7月20日(金)当日消印有効  
※当選者の発表は10日前後で、引換券の発送をもってかえさせていただきます

■紹介・回答 お便りは個人を特定できる情報を削除し、要約して広報紙でご紹介させていただく場合があります。また個別の回答は行っていません

■応募・問い合わせ ハガキかメールに住所・氏名・性別・年齢・電話番号・まちの声を明記して〒375-8601(住所不要)市役所秘書課広報広聴係「まちの声」応募係・✉ hisyo@city.fujioka.gunma.jpへ

プレゼントの提供者を募集しています。  
秘書課広報広聴係☎2208までご連絡ください。



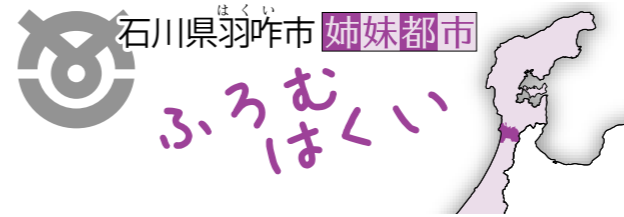
### フクロウの置物

幸福を呼ぶと言われるフクロウ。そばに置きたくなるかわいさです。

緑に囲まれた自然豊かな場所にある工房。オリジナルの陶器を製作、販売している他、電動ろくろを使った陶芸体験やフクロウの置物作りも体験できます。

### ふくろう陶房

\*住所 藤岡市下日野1955-3  
\*電話番号 ☎0880  
\*営業時間 午前9時～午後6時  
\*定休日 月曜日・第3火曜日



千里浜に3,000人超のライダーが集結!

## なぎさは大盛り上がり

5月26日、日の出とともに太平洋側の海岸をスタートして、太陽を追い掛けながら日本列島を横断し、千里浜海岸にゴールするバイクイベント「サンライズ・サンセット・ツーリング・ラリー(SSTR)」が開催されました。水平線に沈む美しい夕日に照らされながら、ヘッドライトが連なってゴールする光景はまさに圧巻。大勢の市民が温かく出迎えると、ライダーの皆さんからは喜びと達成感に満ちた充実の表情がうかがえました。

今年で6年目を迎えたこのイベント。初開催時は127人の参加でしたが、年々参加者数は伸び続け、今年も全国47都道府県から3,000台、3,200人が集結するビッグイベントとなりました!



↑絶え間ないゴールでにぎわう千里浜海岸

家の庭のアジサイが咲き始めたので、先日、友だちを誘って、八塩あじさいの里へ行ってきました。少し早かったけれど、きれいに咲いています。 (70代・女性)

今年のアジサイは暖かい日が続いた影響もあり、例

今年も実家近くの川でホタルが飛び始めたようです。毎年、子どもとホタルを見に行くのを楽しみにしています。ホタルが飛んでいるのを見ると市内の川はきれいなんだなと感じます。 (40代・女性)

ホタルが飛び交う季節となりましたね。お子さんたちとホタルが飛び交う幻想的な夜をお楽しみください。これからもホタルが生きられる自然豊かな環境を残していけるようルールを守って観賞していきたいですね。

「まちなか絹市歴史散歩スタンプラリー」に参加しました。お父さん、お母さん、お兄ちゃんといっしょに2時間くらい歩いたので疲れましたが、楽しかったです。 (8歳・女の子)

このほか10通のお便りをいただきありがとうございます。文章は紙面の都合上要約させていただくことがありますのでご了承ください。

ご参加いただきありがとうございます。スタンプラリーは終了しましたが、現在も商店街にある案内看板に付いているQRコードを読み込むことで、江戸時代に絹の取り引きで栄えた藤岡市の歴史を知ることができます。皆さんも歴史散策をしてみてください。

年より少し早く色づき始めたようです。今回の耳より情報でも八塩あじさいの里を紹介しています。7月中旬まで楽しめるようですのでぜひまた訪れてみてください。

うっとうしい梅雨のころに目を楽しませてくれるのがアジサイです。「八塩あじさいの里」には約5000株のアジサイが色とりどりに咲き誇ります。今年もあじさいの里40周年の記念の年でもあります。アジサイの花を楽しみながら、おなじみの七福神に「福鬼神」を加えた「八福神」巡りの散策はいかがでしょう。

### 耳より情報

アジサイの花を見に行こう!



## ふじおか Culture

～藤岡の文化を探る～ No.28

問い合わせ 文化財保護課(☎235997)

## 古代の水田開発

～小野地区水田址遺跡～

今年も田植えの季節を迎えました。小野地区には広域な平安時代の水田跡(小野地区水田址遺跡)が存在していました。これは鉄製農具が普及したことにより、固い粘土の地盤でも開田できたことによると思われます。いったん開発された小野地区は水田に適した地域であったと考えられ、小野地区水田址遺跡は、藤岡インターチェンジの東西に広がる現在の水田の範囲にほぼ重なります。

時代がさかのぼりますが「常陸国風土記」にある箭括麻多智の説話には、水田開発に対する古代の人々の思いが感じられます。継体天皇の頃のこと、麻多智が新たに開田していたら、夜刀の神が群がって出てきて開田作業を妨害しました。夜刀の神は身体が蛇で頭に角があり、人がこの神を見たならば一家一族が絶えてしまうと言われていました。妨害さ

れた麻多智は、激怒して鎧冑をまとい矛をもって夜刀の神たちを山の登り口まで追い込み、くいを打って言いました「ここから上は神の地とし、下は人が田を作る所としよう。今後永代まで夜刀の神を祭るからたたらないでくれ」と。そして社を建て祭り、十町余りの田を営むことができたということです。ちなみに「夜刀」は「谷戸」で、谷間の低湿地の意味です。



上栗須A遺跡出土鉄製品(左:鍬刃先 右:鎌刃先)